

平成25年3月11日

保護者様

尼崎市立園田北小学校

校長 杉山 寛 明

平成24年度 学力・生活実態調査の概況について

本市では、平成16年度から、学力・生活実態調査を実施しておりますが、2年前からは、対象が6年生のみとなりました。従いまして、以下の概況報告につきましては、6年生のみのデータとなっておりますので、ご了承ください。

1 各教科の概要（全国平均との比較）

各教科の学習得点率を見ると、国語と算数で全国を上回っています。

- 国語では、1.9ポイント上回っています。
- 社会では、3.3ポイント下回っています。
- 算数では、1.2ポイント上回っています。
- 理科では、2.9ポイント下回っています。

学習得点率とは、正答数を満点数で割ったもの×100で計算しています。

2 各教科の観点別・領域別の状況（全国平均との比較）

【国語】観点別では、「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」とも全国より高く、特に「読む」能力が4.2ポイントも上回っています。領域別でも、全項目とも全国を上回っており、「相手や目的に応じて適切に話す」では、全国よりも10ポイント以上、上回っています。

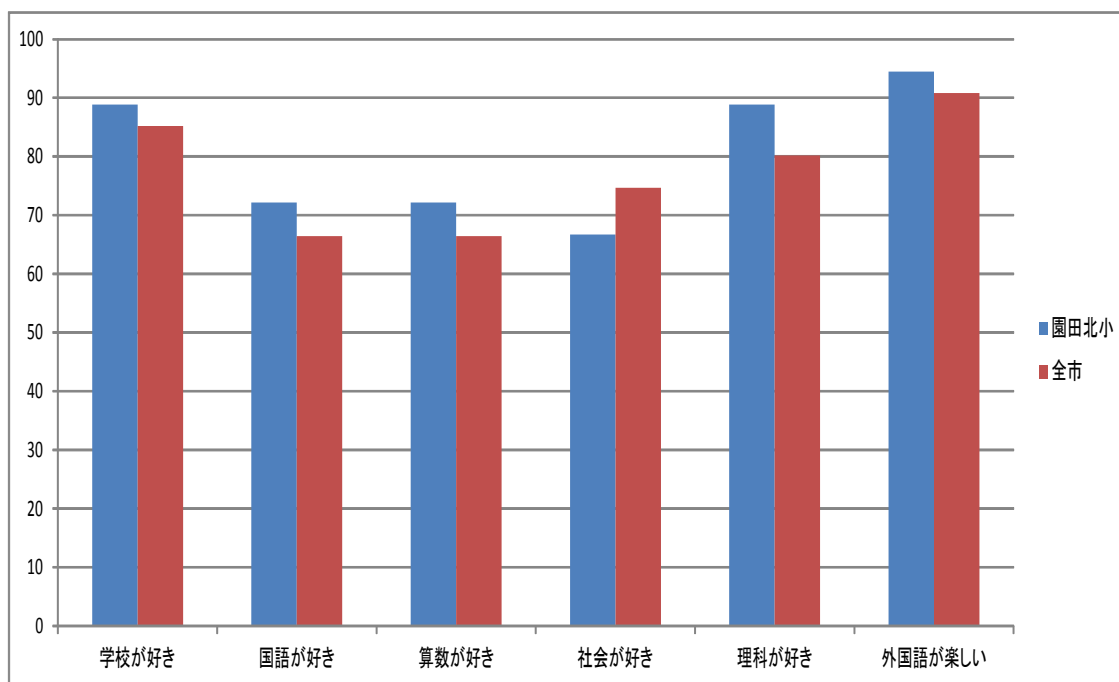
【社会】観点別では、「社会事象についての知識・理解」についてが全国より2.8ポイント上回っておりますが、他の観点については全国より下回っています。領域別では、「世界の主な大陸と海洋・国」や「日本の工業の特色」で全国を上回っています。

【算数】観点別では、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」や「知識理解」の3観点で、全国を上回っています。領域別では、ほとんどの分野で全国を上回っており、特に「整数と小数のしくみ」や「小数のかけ算と割り算」「立体図形の性質」などで高い数値を示しています。

【理科】観点別では、どの観点でもほぼ全国と同じか、やや全国を下回っています。特に、「関心意欲・態度」は14.4ポイント下回っています。領域別でもほぼ全国と同じか、やや下回っており、「流れる水の働き」では13.3ポイント下回っています。

3 生活実態調査について

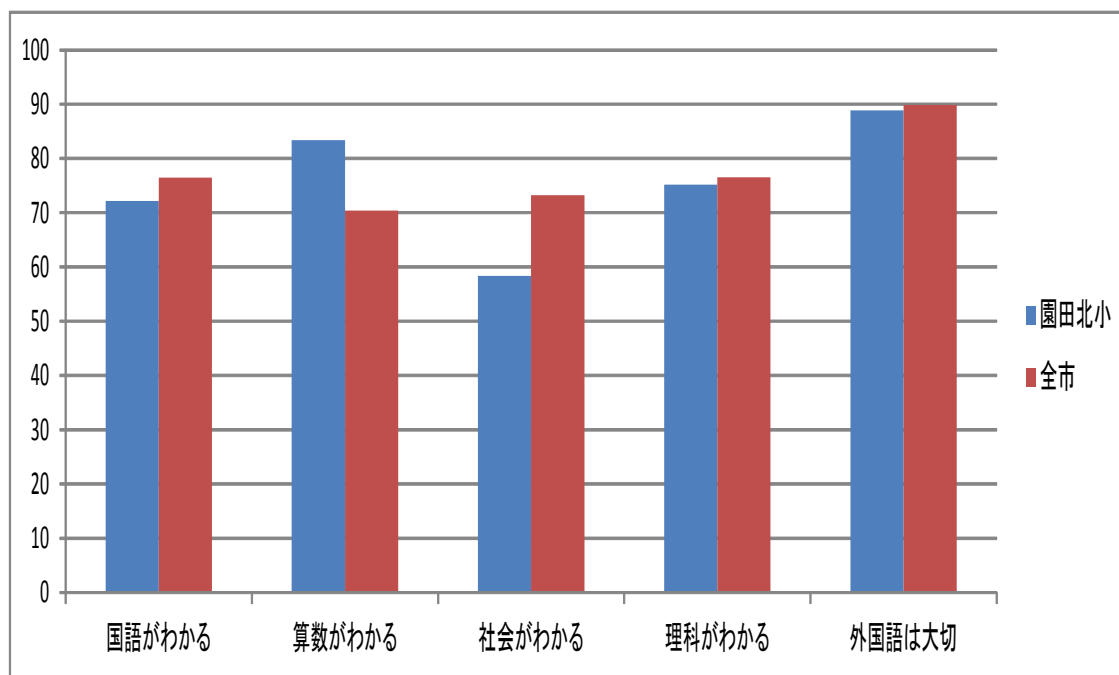
－「子どもの意識や生活」の全市との比較（１）－



園田北小(左)

全市(右)

－「子どもの意識や生活」の全市との比較（２）－

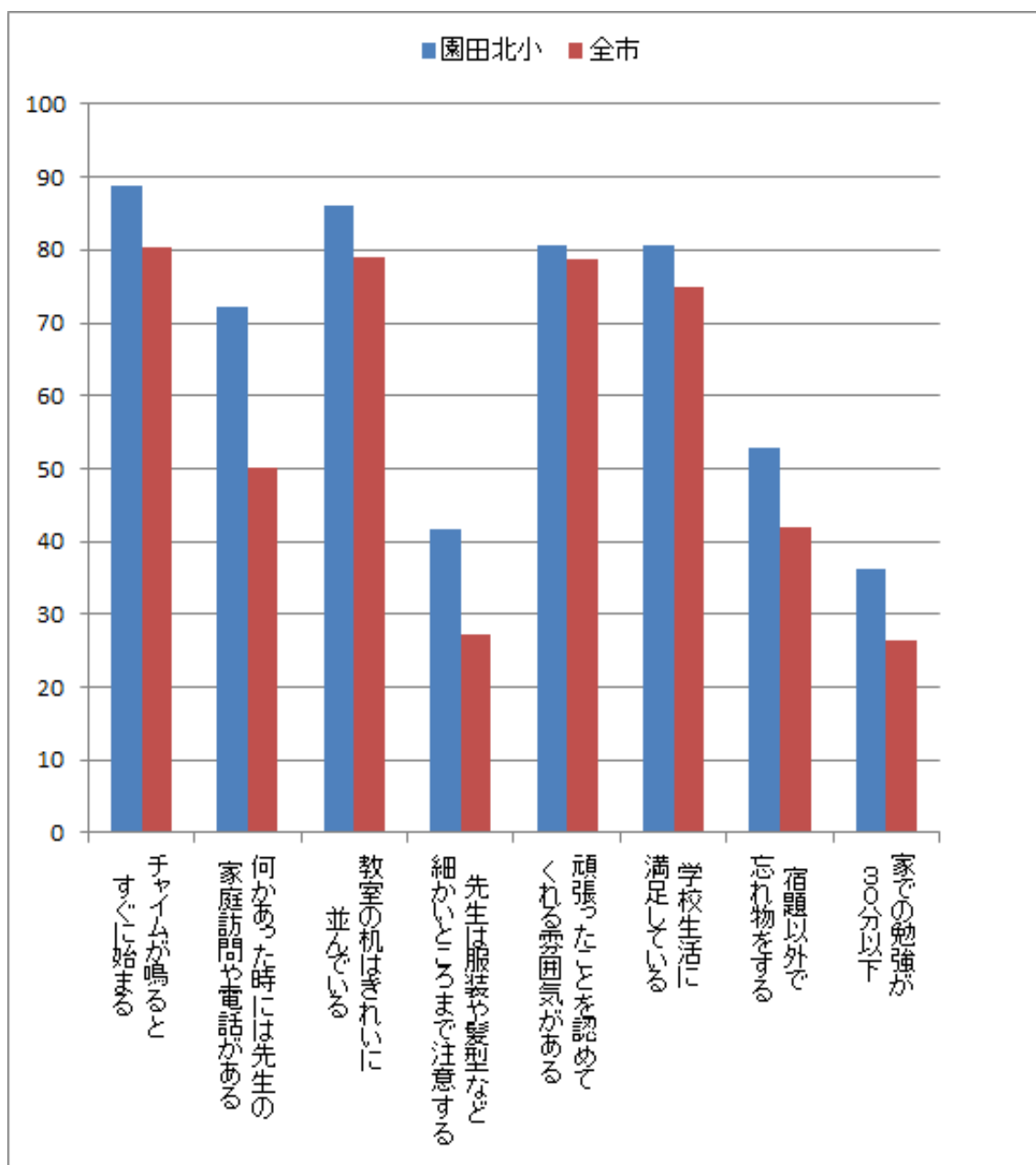


園田北小(左)

全市(右)

生活実態調査は、児童が学校や家庭でのようすについて、項目に答えた割合(%)です。グラフ(1)では、「社会が好き」の項目以外は全市を上回っていますが、それが、グラフ(2)のように「わかる」につながっていない現状があります。ただ、算数は13ポイントも高く、兵庫型教科担任制の新学習システムの成果であると考えられます。また、「社会のわかる」が、他の教科と比べて低いので、指導方法も含めて力を入れていかなければならないと考えています。

－「子どもの意識や生活」の全市との比較(3)－



園田北小(左)

全市(右)

グラフ（３）では、「チャイムが鳴るとすぐに授業が始まる」や「教室の机は綺麗に並んでいる」「頑張ったことは認めてくれる雰囲気がある」「何かあったときには先生の家庭訪問や電話がある」「先生は服装や髪型など細かいところまで注意する」「学校生活に満足している」などのポイントが、全市を上回っており、児童の満足度は高いようです。

今年度の６年生は、全校唯一の単学級で、クラス人数も３８人と多く、発表の機会や先生に質問する機会が取りにくい状況にあったと推察されますが、「宿題以外の忘れ物をする」や「家ででの勉強が３０分以下」という項目のポイントも高かったので、今後とも、ご家庭との連携をより密にして、低学年より習慣化させる取り組みを進めていかなければならないと考えます。

４ 学力向上に向けての学校の取り組み

（１）支援体制を充実する

今年度の学力・生活実態調査結果から見えてきた本校児童の優れた点をさらに伸ばすとともに、必要な児童には適切な支援を行い、学力の定着を図って参ります。

低・中学年には児童支援担当教員を中心に教科指導における複数指導や指導補助を行って参ります。高学年には、新学習システムの教員を配置し、算数の少人数指導や理科・社会・外国語活動などで教科担任制をとるなど、指導方法の工夫や充実を図り、指導効果を上げて参ります。

（２）学習意欲を高める

どの学年クラスでも、音読や漢字、計算ドリル・算数プリントなどを宿題に出し、最低３０分間の家庭学習の習慣化を進めて参りました。宿題などを確実にさせることで基礎的な力がしっかりと身につくよう努めています。かなり定着し、学力向上に寄与している考えられます。やればできるという意識を持たせると共に、コンピュータや大型ディスプレイ、実物投影機などのICT機器活用を通じての学習意欲向上にも努めて参ります。

（３）学力補充の機会を確保する

毎週木曜日を学力補充の日とし、放課後学習指導員を配置して、家庭学習の支援を行ってきました。現在９０名以上の児童が登録しており、家庭学習の定着に一定の成果を上げています。また、担任も放課後等に「理解不十分なところ」を減らすべく指導に取り組んでおります。来年度も引き続き実施して参ります。